

年頭によせて

自然科学書協会 副理事長 小立 鉦彦
(株式会社 南江堂 代表取締役社長)



2020年明けましておめでとうございます。

旧年中は自然科学書協会にご理解、ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

毎年この当協会会報の新年のご挨拶は理事長が述べておりますが、副理事長を仰せつかっている飯塚、小立にお鉢が回って来ました。

2020年となるとまず誰もが思い描くのは56年ぶりの東京オリンピック・パラリンピックでしょう。いよいよ本番ですね。2019年はラグビーワールドカップが予想を上回る大盛況となり、今年のアリ・パラも間違いなく盛り上がるので、連続年でビッグワールドスポーツイベントが日本を^{ぽっこ}跋扈することになります。

その景気のいい話題に比して2020年の出版界はというと、相変わらずの苦境が続くと思われますが、当協会としては、できうる限りの活動を通して立ち向かっていかなくてはなりません。

そこで、2019年の南條理事長の年頭のご挨拶中の主なキーワードを振り返ってみますと、出版物の軽減税率見送り、物流問題、海賊版サイト、教育の情報化に伴う権利問題、幕を下ろした東京ブックフェアに代わるフェア、等々となっております。こうして挙げてみますと、軽減税率見送り以外は本年も出版界にとって厳に対処しなければならない案件ばかりということになります。それらは、出版の低迷期に、そこに身を置く私たちの言わば宿命のように降りかかって来続けます。

当協会は、5つの専門委員会で組織されています。販売・出展委員会、著作・著作権委員会、研修委員会、広報委員会、総務委員会が各々アクティブな活動を通して会員社、そして出版界に寄与しています。前述の各案件に対し今年、販売・出展委員会は物流問題、東京ブックフェアの代替、著作・著作権委員会は海賊版サイト、教育の情報化に伴う権利問題に当たります。研修委員会は各案件について対処の示唆に関われるでしょう。広報委員会は各案件について何か動きがあれば報道する役目を担います。

そうは言っても、委員会で関係案件について討議するのには限界があり、会員社（出版社）独自で当たらないと実効性がないこともあるので、各委員会としては、討議してその結果を出版社にフィードバックできるようなかじ取りが課せられると考えます。

今述べてきた当協会の様々な動きによって今年1年で大幅に前進、というのはどうも無理ですが、当協会活動を通して出版界の困難に抗うには、各委員会に与えられた使命を地道に少しずつ果たしていくことが肝心と考えます。

ここまで負の面についてばかり述べて参りましたが、やはり前進志向も協会として活動するからには重要です。と言うか、まず飛躍を目指す姿勢、そしてその次に難題に対処、が本来の会員社ひいては出版業界のための自然科学書協会の存在意義であるということは歴然です。

本稿ご高読感謝でございます。年始早々かなり“突っ張った”ご挨拶になりましたが、決して毎年の南條理事長年頭所見に対抗しているわけではありません。多分理事長も同じような思いではないかと勝手に意識しつつここまで述べて参りました。当協会は、南條理事長の好適なリードのもと息の合った活動を展開していると自負しております。

皆さま方には、どうぞ本年も当協会にご理解とご協力をお願いする次第でございます。

本年が皆さま方にとりましてよい年となりますようお祈りいたしまして、拙文を閉じさせていただきます。

年頭によせて

自然科学書協会 副理事長 飯塚尚彦
(産業図書株式会社 代表取締役社長)



新年おめでとうございます。

令和という時代はどのような時代になるでしょうか。マクロでは国際化……というより、国境を凌駕する多国籍企業による経済活動の寡占化、ミクロでは個別化、孤立の深化と地域の崩壊……でしょうか。或いは昨年大災害をもたらしたような異常気象の恒常化でしょうか。何れにせよ、令和という時代は我々の英知が試される時代になるのは間違い無いと思います。

一方、平成という時代を振り返ったとき、これを“失われた30年”と形容する向きがあります。確かに出版業界でもこの30年の変遷には厳しいものがあります。きちんと平成を総括して令和を生きる、過去から学び今後に活かす。月並みですが“温故知新”だと思う次第です。

○自然科学書協会の使命

法人移行に伴い、当協会はその使命を“自然科学関連知識の普及及び啓蒙”と“自然科学関連図書等の国内外への広報及び普及”に定めました。簡単に言えば“自然科学の知識普及と図書の国内外への普及”です。

これまで当協会では前者については自然科学書協会講演会やサイエンスカフェの開催と会報の発行に依り、後者については国内外のブックフェアに参加することでその使命を果たして参りました。つまり、一般社団法人に移行したことで会報を発行する目的が“会員相互のため”だけでなく、より一般の方々に対する“自然科学関連知識の普及と啓蒙”の色彩が強まり、その表れが各号の巻頭を飾る有識者による書き下ろし記事になりました。

○会報電子化の先にあるもの

この度、広報委員会の発案で会報の電子化が実現しました。これによりページ数、発行部数、配布の手間、郵送代を含む発送コストといった制約がなくなり、更に、配信方法、例えばメルマガサイトに登録すれば、我々は格安で会員以外の特定多数の方々にも情報をとどけることが可能になります。一方、仮に会員登録制などで読者のある程度把握できるようにしても、コンテンツが衆目にさらされる以上“炎上”する可能性もあります。従って、まずはローカルで十分練成し、徐々に“衆目”を意識したコンテンツを加えるのが良いと思います。

つまり、会報の電子化を単なるメディア変換に留めず、電子メディアの特性を活かして広報活動の拡大を意識すべきだと思います。まずは、この場をお借りしてこの点を広報委員長はじめ委員各位にお願いする次第です。

○読書啓蒙活動の一例

2016年夏、某区立図書館が「図書館でずっと読み継いでいきたい本たち」というイベントを企画しました。これは「出版社の社長が推薦する1冊」というテーマで、出版社の社長が読者に対して推薦文つきで図書を紹介するという企画でした（但し、公立図書館なので自社出版物の推薦は宣伝行為になりかねないので不可）。このような企画は自然科学書協会でも可能だし、逆に自社の出版物に限定して、なぜこの本を企画したのか……とか、その編集秘話とか。これも一般読者に対する広義の“自然科学関連知識の啓蒙”になるのではないかと思います。

○技術に振り回されず、技術を使い倒す

新しいといっても、メールマガジンやホームページといった情報伝達手段は既に生活の一部になって久しく、デバイスがPCからスマホに移行した今日、利用者の指向はパーソナル化(微分)、運用側の指向はビッグデータ化(積分)に向かっていると思います。こと、情報伝達がメールからSNSへ移行したことでこの傾向は加速していると思います。SNSは若年層を中心にその日常に“浸透”……と言うより日常を“侵略”し続けていると感じる今日、自然科学書協会が会報をビット化するにあたっては電子媒体の長短所を把握し、決して技術に振り回されず、むしろこの技術を使い倒す気概が求められると思います。

後々、令和2年とは会報の電子化によって自然科学書協会が技術革新の一步を踏み出した年として位置づけられたなら幸いです。

最後になりましたが、今年も自然科学書協会の活動にご理解ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

第 69 期第 2 回会員報告会・新年会員懇親会

先の 1 月 16 日（木）12 時より、日本出版クラブにおいて、第 69 期第 2 回会員報告会が開催されました。年始のお忙しい時期にもかかわらず、会員各社の代表をはじめとする 37 名に出席いただきました。



（村上販売・出展委員長）

販売・出展委員会からは、昨年の活動報告とともに、今年の自然科学書フェアがジュンク堂書店仙台 TR 店で 5 月 12 日（火）～6 月 30 日（火）の間、1,000 タイトル 3,000 冊規模で開催予定であることが伝えられ、出品依頼の際にはふるって出品頂きたいと呼びかけられた。



（梅澤著作・著作権委員長）

著作出版権委員会からは、著作権法 35 条をめぐる補償金の問題について、現状だいたい決まっている事項の報告と、今年の 10 月をめどに運営できるように一般社団法人公衆送信権補償金等管理協会を中心に進められていること、遅れても来年 5 月には実施に結び付ける必要があると述べられた。



（吉野研修委員長）

研修委員会からは、来期に向けて会員向け研修会や一般向けの講演会について、これから委員会を通じて議論して進めて行きたいと述べられた。

広報委員会からは、前回から紙を廃して新たに Web 版とした会報について、1 月末発行予定の内容の予告がなされ、その後も委員会で議論して新企画を盛り込みながら、面白くて読みごたえがあり利用価値もある会報を目指すので是非広く講読してほしいと述べられた。

（曾根広報委員長）



(池田総務委員長)

総務委員会からは、こちら今回から冊子を廃止して Web 化することになった和文名簿について、昨年会員社にお願いした修正を進めて最終チェック段階に入っており、確認でき次第 Web に掲載すると報告された。また、今後、北京図書展およびフランクフルトブックフェアに向け英文名簿の作成に入ることが伝えられ、協力の要請があった。

引き続き 12 時 30 分より会員懇親会が開かれ、会員各社に加えて協会相談役や事務局を加えた 40 名が参加されました。



(南條理事長)

南條理事長は新年の挨拶の後、出版梓会の新年会に参加されたことを受けて文化賞などその活動について紹介されるとともに新風会の新風賞の受賞にも触れられ、出版不況が続く中でも着実な活動をしているところはある、協会としても会員社とともに地道で着実な活動を続けて行きたいと述べられた。



(伊藤相談役)

そして伊藤相談役による「出版は文化を担う特別な産業であるから出版社はそのことを意識してがんばってほしい」との力強いご挨拶の後、乾杯となった。

およそ 1 時間にわたって賑やかな宴が開かれ、飯塚副理事長からご自身の年末年始の出版業界に関する読書経験をふまえて「いい本をつくり、それをしっかり読者にとどけて読んでもらうという原点に返ることが大切ではないか」という中締めでお開きとなった。

(総務委員長 池田和博)

2019 年年末会員研修会

2019 年 12 月 5 日(木)に開催された年末会員懇親会に先立ち、同日の 16 時 30 分から如水会館コンファレンスルームにて、研修会が行われました。23 社 51 名の参加者でした。

今回の研修会は、前年大変ご好評いただきました新文化通信社 社長の丸島基和氏を再び講師にお招きし、2019 年出版界の動向と 2020 年の出版界に明るい見通しがあるのかをテーマにご講演頂きました。



(講師 丸島基和氏)

まず 2019 年の「出版界 10 大ニュース」から今年を振り返りました。ほとんどのニュースが出版界の厳しさを象徴するものでした。

2020 年も厳しい状況は続く見通しで、業界再編の動きが活発になるのではないかとのこと。一方でこのような状況下でも売上げを伸ばし利益を着実に上げている書店や出版社もあり、その実例を紹介されるとまだまだ工夫の余地があるのではないかと感じさせられました。

この講演会では、配布資料なし・録音・録画・SNS への投稿など一切なしの「禁止令」の中、出版界の裏の裏までも精通されている丸島社長だからこその「ここだけの話」が多く、詳細な内容をご報告できないのが残念ですが、参加者は深い関心を持って傾聴されていました。

(研修委員会 副委員長 下出 雅徳)

研修会の様子



2019 年年末会員懇親会

2019 年 12 月 5 日(木)18 時より、如水会館において、恒例の年末会員懇親会が開催され、来賓 15 名、会員 29 社 64 名の計 79 名が出席した。

開会にあたり南條理事長は、世界的な地球温暖化問題や日本での台風被害などこの 1 年を振り返った後、7 月の改選により 2 期目の理事長をつとめることを述べ、協会としては著作権法第 35 条に関わる権利制限の問題に関心をもっており、専門出版業界のためにも会員社に協力を求めながら活動していきたいと決意をもって挨拶した。

来賓を代表して登壇した相賀昌宏氏(一般社団法人日本書籍出版協会理事長)は、子供のような好奇心とそこからさらなる探求心をもつことが自然科学を支え、そうした精神が自然科学の出版の中に流れていることが世の役に立っていると述べられ、さらに理系文系を越え、知識や実用実利を越えて心を揺り動かすような仕事をしていきましょうと挨拶された。

続いて登壇した川上浩明氏(株式会社トーハン代表取締役副社長)は、この 1 年を振り返り、自然という視点では自然災害が多かつ大型化していることを述べられ、科学の視点では嬉しいニュースとして吉野彰先生のノーベル化学賞授賞をあげられ、出版業界は厳しい状況にあるが日本の教育・文化を支えてきているという自信をもって業界をあげて取り組みましょうと力強く挨拶された。

この後、長年理事として協会活動に従事された方を対象に功労者表彰が行われた。本年は金原優氏(医学書院代表取締役会長)、大畑秀穂氏(医歯薬出版元取締役会長)、田中久米四郎氏(電気書院取締役会長)、森田猛氏(緑書房代表取締役社長)の 4 氏が表彰され、当日出席の田中氏・森田氏に南條理事長から賞状と金一封が手渡された。

表彰にあたって、当初出席予定であったものの急遽欠席となった金原氏からのメッセージを司会者が代読、29 年間にわたって当協会の理事をされてきたこと、今後も一出版人として当協会と近い関係を保ちながら仕事をされたいことなどが伝えられた。次に田中氏より、自身のご経験をふまえ、若いうちに当会の委員会のような会合に参加することを勧めたいと挨拶された。最後に森田氏より、理事を務めていたとき委員会活動の活発さおよび委員の元気さから力をもらった、そのことが何よりも楽しかったと挨拶された。

安西浩和氏(日本出版販売株式会社専務取締役)が、永い歴史のある出版は今後も続いていくものと思うが、昭和のビジネスモデルが残っている部分もあると思われ令和にふさわしい仕事の仕方を見つけていくことも必要であろうと述べられた後、日頃の謝意とともに乾杯の音頭を取られた。その後は懇談の時間となり、会場内では旧交を温めたり、情報を交換する姿があちらこちらで見受けられた。

宴もたけなわのうちに中締めとなり、小立副理事長より COP25・地球温暖化の問題や出版会のこととして教育のデジタル化・市場の縮小傾向などに触れられ、最後に協会活動への理解と支援をお願いして、2019 年の懇親の集いはお開きとなった。(総務委員長 池田和博)

開会の辞(南條理事長)



来賓ご挨拶(相賀昌弘様)



来賓ご挨拶(川上浩明様)



功労者挨拶(田中久米四郎様)



功労者挨拶(森田猛様)



功労者表彰



乾杯(安西浩和様)



中締(小立副理事長)



会場の様子



第 69 期理事会・委員会開催一覧（2019 年 12 月～2020 年 3 月）

●理事会

<第 69 期>

- ・ 12 月 5 日（木）／如水会館
- ・ 1 月 16 日（木）／出版クラブホール・会議室
- ・ 3 月 19 日（木）／文化産業信用組合

●委員会

<第 69 期>

- ・ 1 月 10 日（金）著作・出版権委員会／出版クラブホール・会議室
- ・ 1 月 15 日（水）広報委員会／出版クラブホール・会議室
- ・ 1 月 17 日（金）販売・出展委員会 自然科学書フェア小委員会
／出版クラブホール・会議室